

GPAからみた保健医療学部の入試制度の検討

傳野隆一¹⁾、三瀬敬治¹⁾、嶋田哲朗²⁾、土屋節子²⁾、三浦良正²⁾、
瀬上朋宏²⁾、上野由美子²⁾

¹⁾ 札幌医科大学医療人育成センター 入学者選抜企画研究部門

²⁾ 札幌医科大学事務局学務課入試室

Analysis of admissions based on GPA s scores for Health Sciences School students

Ryuichi DENNO¹⁾, Keiji MISE¹⁾, Teturo SHIMADA²⁾, Setuko Tuchiya, Yoshimasa MIURA²⁾,
Tomohiro SEGAMI²⁾, Yumiko UENO²⁾

¹⁾ Department of Admission, Center for Medical Education, Sapporo Medical University

²⁾ Division of Student Affairs and Research, Admissions office, Sapporo Medical University

本学保健医療学部の入試制度は平成22年度入試から後期日程を廃止し、推薦入試を導入するなど、大幅に変更した。このような入試制度の変更により、学生の質がどのように変化したのかGPAを用いて検討した。

対象は、本学保健医療学部に入試した平成21年度入学生（看護学科50名、理学療法学科20名、作業療法学科20名）と平成22年度入学生（看護学科50名[追加合格者1名を含む]、理学療法学科20名、作業療法学科20名）を対象とした。

結果は、いずれの学科においても平成21年度まで実施していた後期日程と比較して推薦入試で入学した学生のGPAは高く、また、これまで実施してきた前期日程と比較しても推薦入試で入学した学生のGPAは高かった。しかし、細かく検討すると、推薦入試であっても専門科目のGPAが相対的に低い学科もある。今後はカリキュラムのあり方も含めた検討が必要である。

1 はじめに

本学の保健医療学部は平成5(1993)年に開設以来、単に職業として必要な実践的知識・技術を教授するのではなく、公共性の強い医療職としての社会的責務を果たすとともに、専門性を研鑽し学問体系の確立に貢献できる人材を輩出してきている¹⁾。一方、少子化や大学全入などの要因により高等教育のあり方が変化し、看護職は、養成校数に比べ志望者数が減少傾向にあり、理学・作業療法士は既に衰退期に入っている²⁾。しかし、道内に限ってみると18歳未満の人口は減少しているが、大学進学率は右肩上がりに増加してきている。また、道内の国公立大学を志望する学生の動向³⁾をみると、看護は平成21年度と比較し6%増、医療技術(理学・作業)は9%増となっているところから、潜在的な医療職の志望者はあるものと考えられる。このような状況の中で、本学保健医療学部の入試制度は平成22年度入試から後期日程を廃止し、推薦入

試を導入するなど、大幅に変更した。このような入試制度の変更により、学生の質がどのように変化したのかGPA(Grade Point Average)⁴⁾を用いて検討した。

2 対象

本学保健医療学部に入試した平成21年度入学生(看護学科50名、理学療法学科20名、作業療法学科20名)と平成22年度入学生(看護学科50名[追加合格者1名を含む]、理学療法学科20名、作業療法学科20名)を対象とした。

本学部における入学者選抜制度(表1)は、平成21年度入試まで後期日程試験を行っていたが、その後廃止し、これに変わって推薦入試を導入した。平成21年度前期日程における平均倍率は1.88倍、後期日程における平均倍率は6.50倍であった。また、平成22年度前期日程における平均倍率は1.75倍、推薦入試における平均倍率は2.39倍であった。

入学後1年次に単位取得可能な科目は、一般教育

科目は各学科とも共通であるが、専門科目は各学科によって異なる(表2)。1年次修了時における成績を学業成績基準(GPA)で評価した。GPAは、履修した全ての科目の成績に対し、評価「優」は4、「良」は3、「可」は2、「不可」は1ポイントとし、その得られたポイントに当該科目の単位数を掛け、それを履修した総単位数で割って平均点を出した。退学者は除外してある。

3 結 果

表3は、平成21年度前期日程で入学した学生の大学入試センター試験の得点を基準とし、平成21年後期日程および平成22年度前期日程、推薦入試の得点率を示したものである。各学科により受験科目が異なるので学科ごとに算出してある。即ち、看護学科では国語、外国語の合計450点満点とし、理学療法学科では外国語の250点満点とし、作業療法学科では国語、数学1、外国語の合計550点満点で比較検討した。

平成21年度入試における前期日程と後期日程の大学入試センター試験の得点率を比較すると、有意差はないものの各学科ともに後期日程の得点率が低い。しかし、平成22年度入試では、各学科ともに前期日程に比較して推薦入試の得点率が高くなっている。また、理学、作業の前期日程についてみると、実質倍率が平成22年度の入試の方が低下しているにもかかわらず、大学入試センター試験の得点率は平成22年度入試の方が高くなっている。

一方、平成21年度と平成22年度大学入試センター試験における各科目の平均点を比較検討(表4)すると、国語と数学Iに関しては、平成22年度入試で得点が低く、英語は逆に平成22年度入試で得点が高くなっている。従って、理学療法学科の前期日程あるいは推薦入試の得点率が高くなっているのは、英語の平均点の影響を受けている可能性は否定できない。

次いで、入学後の成績をGPAで比較した。最初に看護学科の学生に関する結果である(表5)。平成21年度の前期日程と後期日程あるいは平成22年度の前期日程と推薦入試と比較すると平成21年度の前期日程3.30に対し後期日程3.35あるいは平成22年度の前期日程3.41に対し推薦入試3.54と後期日程あるいは推薦入試の方が高くなっている。その内訳をみると教養科目に関しては平成21年度では前期日程3.21に対し後期日程3.23、平成22年度では前期日程3.29に対し推薦入試3.40であった。さらに専門科目に関しては平成21年度では前期日程3.35に対し推薦入試3.46、平成22年度では前期日程3.55に対し推薦入試3.70と非常に高くなっている。いずれの年度においても教養科目よりは専門科目の方が高く、前期日程よ

りは後期日程あるいは推薦入試の方が高くなっていた。

次に理学療法学科の学生に関する結果である(表6)。平成21年度の前期日程と後期日程あるいは平成22年度の前期日程と推薦入試と比較すると平成21年度の前期日程3.29に対し後期日程3.42あるいは平成22年度の前期日程3.21に対し推薦入試3.53と後期日程あるいは推薦入試の方が高くなっている。その内訳をみると教養科目に関しては平成21年度では前期日程3.26に対し後期日程3.56、平成22年度では前期日程3.09に対し推薦入試3.49であった。さらに専門科目に関しては平成21年度では前期日程3.42に対し後期日程3.33、平成22年度では前期日程3.36、推薦入試3.49と平成22年度では教養科目および専門科目でも推薦入試でGPAが高くなっていた。平成22年度では前期日程および推薦入試共に専門科目でGPAが高くなっていた。

最後に作業療法学科の学生に関する結果(表7)である。平成21年度の前期日程と後期日程あるいは平成22年度の前期日程と推薦入試とを比較すると平成21年度の前期日程3.25に対し後期日程3.43あるいは平成22年度の前期日程3.29に対し推薦入試3.47と後期日程あるいは推薦入試の方が高くなっている。その内訳をみると教養科目に関しては平成21年度では前期日程3.19に対し後期日程3.59、平成22年度では前期日程3.29に対し推薦入試3.53といずれの年度においても後期日程あるいは推薦入試でGPAが高くなっていた。専門科目に関しては平成21年度では前期日程3.26に対し後期日程3.13と後期日程で低くなっている。しかし、平成22年度では前期日程3.29に対し推薦入試3.39と推薦入試で高くなっていた。平成21年度の教養科目のGPAが最も高い数値を示した。次いで高いのは平成22年度の推薦入試のGPAが高かった。作業療法学科では入学後1年目では専門科目に対して十分学習意欲を引き出せていない可能性がある。

4 考 察

本来GPA制度は、成績評価の厳格化をめぐる議論の中でしばしば登場するものであるが、GPA制度そのものが成績評価の厳格化や学習効果の向上を意味するものではないことは広く指摘されており、特に学生支援、学習相談制度との連携が不可欠であることが指摘されている⁵⁾。本学ではGPA制度を導入していないので、GPAの厳格な運用はなされていない。このような状況ではあるが、今回入試制度による違いを入学1年後のGPAから検討した。

先ず看護学科の学生について検討する。平成21年

GPAからみた保健医療学部の入試制度の検討

度入学生について見ると前期日程 3.30 より後期日程 3.35 の方が高くなっている。また、前期日程では教養科目 3.21 より専門科目 3.35 の方が高く、後期日程では教養科目 3.23 より専門科目 3.46 といずれの入試であっても専門科目の方が高くなっている。これは、看護職を意識ながら学んでいるものと考えられる。平成 22 年度入学生で見ると平成 21 年度入学生と同じ傾向にあるが、前期日程よりは推薦入試の方が高く、前期日程であっても推薦入試であっても教養科目よりは専門科目で高くなっている。推薦入試のセンター試験の成績は前期日程をやや上回る程度であるが、入学後は良く勉強していることがわかる。それにつられて前期日程の入学生も勉強していることがうかがわれる。推薦入試は道内の高校から推薦してもらうことになっているが、非常に意欲のある学生が入学していることがわかる。

次いで理学療法学科についての検討である。平成 21 年度入学生についてみると、前期日程 3.29 よりも後期日程 3.42 の方が高くなっている。センター試験の得点率では後期日程の方が低いにもかかわらず、むしろ GPA は高くなっている。しかし、後期日程で入学した学生は、教養科目については前期日程 3.26 に対し後期日程 3.56 と非常に高いにもかかわらず、専門科目については前期日程 3.42 に対し後期日程 3.33 とむしろ低くなっている。平成 21 年度入試における後期日程の教養科目の GPA が高いのは、実質倍率 9.0 倍と高いことが影響している可能性がある。平成 22 年度入学生について見ると前期日程 3.21 に対して推薦入試 3.53 と推薦入試で非常に高くなっている。さらに推薦入試では教養科目 3.49 に対して専門科目 3.59 と専門科目で非常に高くなっている。推薦入試で入学している学生は、よく勉強し、かつ理学療法に強い意欲を持っていることがわかる。

最後に作業療法学科についての検討である。平成 21 年度入学生についてみると、前期日程 3.25 に対して後期日程 3.43 と後期日程で入学した学生の方が入学後良く勉強している。しかし、後期日程で入学した学生は、教養科目 3.59 であるのに対し専門科目 3.13 と極端に低くなっている。専門科目に関して興味を持っていない可能性がある。平成 22 年度入学生に関しても同じように前期日程 3.29 に対して推薦入試 3.47 と推薦入試で入学した学生が良く勉強している。しかし、推薦入試で入学した学生の専門科目は 3.39 と GPA は低く、専門科目に関して興味を持っていない可能性がある。従って、入学後早期から作業療法に対する興味を持続させる対策が必要と考えられる。

現在日本の大学で GPA 制度を導入している大学は半数程度であり、入試制度との関連で検討した論文は

少ないが、岡田⁶⁾が天理大学人間学部に入学生について検討した結果では、推薦入試による入学生の成績が最も良く、その理由として不本意入学者が少ないことをあげている。本学の検討結果もいずれの学科においても推薦入試による入学生の GPA の成績が最も良かった。

5 結 語

大学全入時代を迎え、入学者選抜制度が大きな役割をなしていないと言われている。さらに本学の保健医療学部での倍率が低下している。これには様々な要因が関係しているものと考えられる(学内委員会報告書)。本学が必要としている学生を受け入れるための方策として後期入試を廃止し、推薦入試を導入したのもその一環と言える。その結果に対する評価を今回は GPA を用いて入学後 1 年生を対象に検討した。いずれの学科においても平成 21 年度まで実施していた後期日程と比較して推薦入試で入学した学生の GPA は高く、また、これまで実施してきた前期日程と比較しても推薦入試で入学した学生の GPA は高かった。しかし、細かく検討すると、推薦入試であっても専門科目の GPA が相対的に低い学科もある。今後はカリキュラムのあり方も含めた検討が必要になるであろうが、現在カリキュラムの改訂が進んでいるところなのでその結果を待ちたい。

推薦入試導入 2 年目までの結果としては、推薦入試で入学してきた学生は入学前のセンター試験の成績も良く、入学後も良く勉強している。今後さらに学年が進み、臨床実習が始まって高い学習意欲を持続できるかどうか今後の課題である。

参考文献

1. 札幌医科大学 平成 22 年自己点検・評価報告書 2010、2010 年発行
2. カレッジマネジメント 162、2010 年発行
3. 2011 年度 大学入試結果概況 札幌版・駿台教育研究所 2011 年発行
4. 文部科学省・日本の大学の現状について、Retrieved August, 23, 2008 from <http://www.mext.go.jp/a?menu/koutou/daigaku/04052801/003.htm>
5. 大西直樹・大学カリキュラムにおける履修登録制度と GPA 制度 - 大学教育の質を確保するための戦略。「慶應義塾大学のカリキュラム研究」講演記録集 1、2006 年発行
6. 岡田直樹・入学者の学業成績からみた大学入試制度の分析 - 学業成績基準 (GPA) にもとづく入試制度評価の試み - 天理大学生涯教育研究 (7) , 21 ~ 32pp, 2003

傳野隆一、三瀬敬治、嶋田哲朗、土屋節子、三浦良正、瀬上朋宏、上野由美子

表1 平成21・22年度入試における選抜の状況

平成21年度入試

区分	学科	募集人員	出願者	第1段階合格者	第2次試験受験者	第2段階合格者	実質倍率
前期	看護	40人	67人	67人	66人	40人	1.65
	理学	16人	38人	38人	37人	16人	2.31
	作業	16人	32人	32人	32人	16人	2.00
区分	学科	募集人員	出願者	第1段階合格者	第2次試験受験者	第2段階合格者	実質倍率
後期	看護	10人	115人	115人	64人	10人	6.40
	理学	4人	60人	60人	36人	4人	9.00
	作業	4人	33人	33人	17人	4人	4.25

平成22年度入試

区分	学科	募集人員	出願者	第1段階合格者	第2次試験受験者	第2段階合格者	実質倍率
前期	看護	40人	74人	74人	72人	41人	1.76
	理学	16人	30人	30人	29人	18人	1.61
	作業	16人	31人	31人	30人	16人	1.88
区分	学科	募集人員	出願者	第1次選考試験受験者	第1次選考合格者	第2次選考合格者	実質倍率
推薦	看護	10人	30人	30人	10人	8人	3.00
	理学	4人	9人	9人	4人	2人	2.25
	作業	4人	4人	4人	4人	4人	1.00

表2 保健医療学部1年次における教育科目

一般教育科目

	授業科目	単位
生物学的理解	生物学	1
	生命の物理学	1
	生命の科学	1
	自然科学実験	1
心理・行動・思考	心理学概論	2
	心理学実験	1
	倫理学	1
	論理的思考	1
社会と文化	社会学概論	2
	法学	1
生活と情報	情報科学Ⅰ	1
	情報科学Ⅱ	1
	統計数学	1
	生活学	1
	健康と活動	1
	スポーツとレクリエーション	1
コミュニケーション	表現論	1
	英語Ⅰ	1
	英語Ⅱ	1
	スペイン語	1
	ロシア語	1
その他	手話・点字	1
	自主課題研究	1

GPAからみた保健医療学部の入試制度の検討

看護学科専門科目

授業科目		単位
人間と健康	生体科学Ⅰ	2
	生体科学Ⅱ	2
	人間発達学Ⅰ	1
	人間関係論	2
	生体力学	1
	人間工学	1
健康と環境	リハビリテーション概論	1
看護の基本	看護学概論Ⅰ	2
	看護学概論Ⅱ	2
	看護技術総論	1
	看護技術Ⅰ	1
	ヘルスアセスメントⅠ	1
統合学習	保健医療総論Ⅰ	1
	地域合同セミナー	1

理学療法学科専門科目

授業科目		単位
人体の構造と機能及び心身の発達	人間発達学Ⅰ	1
	解剖学Ⅰ	2
	解剖学Ⅱ	1
	解剖学実習Ⅰ	1
	生理学Ⅰ	1
	生理学Ⅱ	2
	生体力学	1
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学概論	1
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	1
	保健医療総論Ⅰ	1
	地域医療合同セミナー	1
基礎理学療法学	理学療法学概論	1
地域理学療法学	人間関係論	2
臨床実習	臨床実習Ⅰ	1

理学療法学科専門科目

授業科目		単位
人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	2
	解剖学Ⅱ	1
	解剖学実習Ⅰ	1
	生理学Ⅰ	1
	生理学Ⅱ	2
	生体力学	1
	人間発達学Ⅰ	1
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学概論	1
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	1
	保健医療総論Ⅰ	1
	地域医療合同セミナー	1
基礎作業療法学	作業療法学概論	2
作業療法評価法	作業療法総論Ⅰ	1
臨床実習	臨床実習Ⅰ	1

傳野隆一、三瀬敬治、嶋田哲朗、土屋節子、三浦良正、瀬上朋宏、上野由美子

表3 大学入試センター試験の得点率

年度	学科	前期	後期
平成21年度	看護 ^(注1)	1.00	1.00
	理学 ^(注2)	1.00	0.97
	作業 ^(注3)	1.00	0.93
年度	学科	前期	推薦
平成22年度	看護	1.01	1.07
	理学	1.05	1.38
	作業	0.96	1.02

(注1) 平成21年度前期のセンター試験を基準とし、看護学科共通科目である国語、外国語の合計450点満点を比較

(注2) 平成21年度前期のセンター試験を基準とし、理学療法学科共通科目である外国語の250点満点を比較

(注3) 平成21年度前期のセンター試験を基準とし、作業療法学科の共通科目である国語、数学1、外国語の合計550点満点を比較

表4 平成21・22年度大学入試センター試験の平均点

	平成21年度	平成22年度
国語	115.46点	107.62点
数学I	49.34点	40.87点
英語 [*]	139.05点	147.53点

^{*}英語は筆記試験とリスニングの各平均点を単純加算したものである。

表5 前期日程および後期日程または推薦入試で入学した看護学科学生の
教養科目と専門科目のGPAの比較

平成21年度入試

区分	全科目	教養科目	専門科目
前期日程	3.30	3.21	3.35
後期日程	3.35	3.23	3.46

平成22年度入試

区分	全科目	教養科目	専門科目
前期日程	3.41	3.29	3.55
推薦入試	3.54	3.40	3.70

表6 前期日程および後期日程または推薦入試で入学した理学療法学科学生の
教養科目と専門科目のGPAの比較

平成21年度入試

区分	全科目	教養科目	専門科目
前期日程	3.29	3.26	3.42
後期日程	3.42	3.56	3.33

平成22年度入試

区分	全科目	教養科目	専門科目
前期日程	3.21	3.09	3.36
推薦入試	3.53	3.49	3.59

表7 前期日程および後期日程または推薦入試で入学した作業療法学科学生の
教養科目と専門科目のGPAの比較

平成21年度入試

区分	全科目	教養科目	専門科目
前期日程	3.25	3.19	3.26
後期日程	3.43	3.59	3.13

平成22年度入試

区分	全科目	教養科目	専門科目
前期日程	3.29	3.29	3.29
推薦入試	3.47	3.53	3.39